

# 第8回定期大会に繕集しよう

# 日刊 動労千葉

83. 10. 3

No. 1457

國鐵千葉動力車勞働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）一九三五・六・（公衆）〇四七二（22）七一〇七

「三里塚」国鉄決戦の勝利を歓喜する

勤労千葉は、十月五・六日、第八回定期大会を開催します。

未曾有の国鉄労働運動解体攻撃が吹き荒れる今日、われわれは今定期大会において動労千葉の路線的支柱である「反合・三里塚を基軸に闘う労働運動」路線をさらに強固にうち固め、一三〇〇名一丸となつて反撃にうつてでようではありませんか。

厳しい情勢だからこそ  
労働組合の原則を守つて闘お

国鉄当局は政府・自民党、臨調の一国鉄攻撃に便乗し、「今がチャンス」とばかりに既得権、労働条件を奪いとり、職場支配権を奪回する攻撃を強めています。これまでの労使関係をすべて破壊し、ワッペン闘争への介入はおろかついに名札の着用さえ強制しようとしてきています。

一步さかれば十歩追いうちをかけてくる。という状況の中で、問われている事は歯を食いしばつてふんばり、労働組合の原則をつらぬきとおすといふことでなければなりません。

姿を見れば明らかです。  
当局のふところに飛びこみ、勤労千葉、國労を

**勤労**「本部」革マルです  
**勤労**「本部」革マルは、「冬の時代」  
「清勤労」が

「べきではない」「闘う者は挑発者だ」と絶叫し、

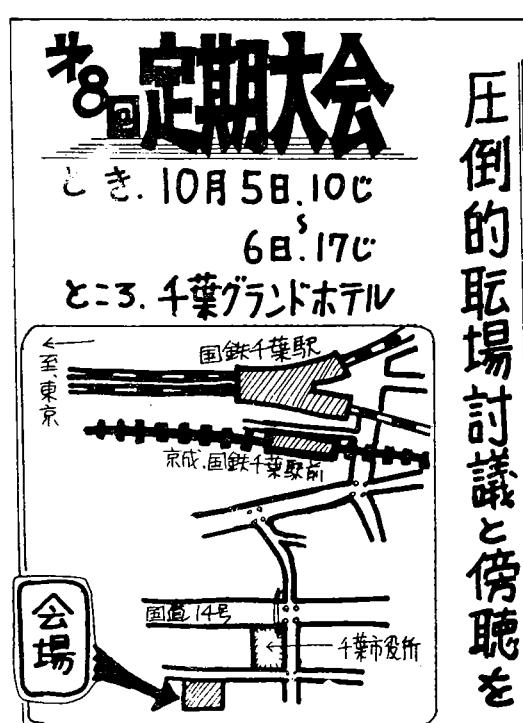
化や入浴規制など当局の際限なき攻撃に、これ以上はゆずれないと決起した国鉄労働者を「挑発者

撃に起つ國労への組織介入を行つてゐるのです。

一  
戻合  
三  
里塙

何度もいうように、動労「本部」革マルは正直正銘、当局の尖兵であり、一掃する以外に労働運動の未来はありません。

われわれは、動労「本部」革マルの反労働者性を見抜いたからこそ十数年来にわたって警鐘を乱打してきたし、血を流してまで分離独立をやりぬいてきたのです。今日の動労「本部」革マルの姿を見た時、動労千葉の正しさを百パー セント確認することができます。



=全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!=